

国語(現代文) 東北大学 文学部・教育学部・法学部・経済学部 (前期) 1/4

<総括>

出題数 現代文2題 ・ 古文1題 ・ 漢文1題 試験時間 150分

直ちには理解できない抽象的概念が連続するために、まず文脈を正確にたどる力が問われる。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	『自由という牢獄』(大澤真幸)
頻出度合 ・的中等	著者はしばしばみかけるが、出典はまれ。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	(一)	書き取り	やや易	(3)「遇する」がやや難。
		(二)	論述	やや難	内容的に帰結するところまで読む。
		(三)	論述	標準	傍線部以降の文脈および「経済学の言い分」より。
		(四)	論述	標準	根拠が明示された段落に注目する。
		(五)	論述	やや難	「資本主義の本質」から「自由の蒸発」へ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

概略をとらえるだけでなく、文脈に忠実に読み取り、要約を作成するなどの基本的な学習が欠かせない。

国語(現代文) 東北大学 文学部・教育学部・法学部・経済学部 (前期) 2/4

<総括>

出題数 現代文2題 ・ 古文1題 ・ 漢文1題 試験時間 150分

登場人物をとりまく背景や、その言動や表情から、内面を推察する読解力が問われている。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『手のひらの音符』(藤岡陽子)
頻出度合 ・的中等	まれだと思われる。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	小説	(一)	記述	標準	「文脈に即して」がポイント。
		(二)	論述	標準	「伝えようとしているのか」に注意。
		(三)	論述	やや難	字数内にまとめるのが難しい。
		(四)	論述	標準	水樹はどう捉えているか。
		(五)	論述	難	悠人の生き方に重ねつつ、正浩の言葉もふまえる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

あらすじにとどまらず、精読して説明する練習をすること。

国語(古文) 東北大学 文学部・教育学部・法学部・経済学部 (前期) 3/4

<総括>

出題数

現代文2題 ・ 古文1題 ・ 漢文1題

試験時間 150分

本文は読みやすく平易だが、解答を字数内にまとめることが難解な、読解力と文章力を問う良問。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『花月草紙』(松平定信)
頻出度合 ・的中等	しばしば出題される
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	(一)	記述	やや難	ポイントとなる単語を文脈を把握しながら口語訳する問題。
		(二)	記述	難	傍線の後の文章を正しく読み取り、字数内にまとめる問題。
		(三)	記述	やや難	言葉を文脈に即して補いながら重要な単語、文法を正確に読み取る問題。
		(四)	記述	標準	本文に書かれている事項を過不足なく並べてまとめる。
		(五)	記述	やや難	傍線の前の部分を過不足なくまとめながら、字数内にまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単語、文法の基礎的な力を身に付け、その上で正確に本文を現代語訳する力をつける学習を行う。さらに、読んだ内容を指定文字数にまとめる練習を繰り返す。地道な学習が合格への近道である。

国語(漢文) 東北大学 文学部・教育学部・法学部・経済学部 (前期) 4/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 150分

設問の形式は一昨年度以前のあり方に回帰しており、設問の意図をくみ取り難い問題はなかった。本文は大きく二つの部分に分かれる。まず、冒頭の警句の真意を掘り下げていき、子孫のために過剰な財産を残すべきではないことを説く。次に、財産を残すに当たって心の持ち様にも意を払うべきだと述べる。内容説明を問う問(四)(五)は、問題文を相当丁寧に読み込み、過不足のない解答を作成することが要求された。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	南宋・葉適『水心文集』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	論説	(一)	重要語の訓み	易	(1)(2)ともに基本的な知識を問う。
		(二)	書き下し	標準	(イ)で「俱」を動詞化することがやや難しい。
		(三)	口語訳	標準	文脈に即して「当身」「狭」を的確に訳せるかがポイントになる。
		(四)	指示内容の説明	やや難	直前の内容がポイントになることは把握しやすいが、制限字数内で解答をまとめるには工夫がいる。
		(五)	内容説明	難	問題文全体の構造を正確に読解し、傍線部(A)の主旨に照らして過不足のない解答を作成しなければならない。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

特定の出典にこだわらず、あらゆるジャンルに対応できる総合的な学習力を身につける必要があることは例年と変わらない。重要語・基本句形など漢文の基礎的な知識を身につけていることが大前提であり、それに基づき問題文全体の構造を把握する精密な読解力と、字数の制限・無制限にかかわらず過不足のない解答を作成する記述力を養っていく必要がある。今年度の問題文は280字強であり、昨年度よりは減少したものの、長文が出題されることに変わりはない。したがって、今後も基礎的な知識を土台として、粘り強く問題文を読み込んでいく姿勢が求められる。